

# 麻酔について

愛知県がんセンター中央病院  
麻酔科

# 手術に際して麻酔が必要なのはなぜ？

- 身体が手術により傷つくと、痛みなどの様々な刺激により身体に大きな負担が生じます。
- 痛みなどの様々な刺激をコントロールすることによって、患者さんの身体にかかる負担を軽減するために、麻酔が必要となります。
- 麻酔は、手術を安全に、かつ身体にかかる負担をできるだけ減らして遂行することを目的としています。

# 麻酔科の主な役割

- **循環管理**：手術中に血圧や脈拍、尿量など心臓や血液の流れを整えます。
- **呼吸管理**：手術中に体に十分な酸素を送り、二酸化炭素を吐き出すための環境を整えます。
- **疼痛管理**：手術中、手術後に体への最大の負担となる痛みを和らげます。



# 手術の前に

- ・患者さん1人1人の状態に合わせて、麻酔の計画をします。
- ・一人一人の状態を知るために、様々な検査を受けていただきます

採血

心電図

心エコー

胸部レントゲン

肺機能検査

トレッドミル

# 必ず禁煙を！

- 喫煙により、身体のすみずみまで酸素を運ぶ機能などが障害されたり、ニコチンにより心臓が興奮しやすくなり、大事な血管が狭くなることにより、心筋梗塞などのリスクになります。
- 痰が増え、気管支の過敏性が増し、気道が狭くなったり詰まる結果、血液のなかの酸素が下がり、脳や心臓に十分な酸素を運べなくなります。
- いずれも普段より負担の増える手術中～後には、特に起こりやすくなります。

# ！必ず禁煙を！

- 禁煙をしない場合、手術後の肺合併症は2～5倍に増えます。手術直前まで喫煙するほど合併症は起こりやすくなります。  
傷の治りも悪くなります。
- 禁煙(1ヶ月以上)すると、肺合併症が減ります。
- 禁煙(数ヶ月)すると、心筋梗塞は1/3に減ります。
- 禁煙が守れないと、手術が延期になることがあります。
- 1日でも早い禁煙はより良い結果につながります。
- 最低1ヶ月は禁煙をお願いします。

# 麻酔科医による術前診察

- 麻酔科医による診察があります。  
多くの場合、入院後に行います。
- 患者さんの全身状態、病歴、手術内容から、麻酔方法を決めます。身体の状態を伺い、必要な準備を進めます。
- 麻酔方法や合併症について、説明します。



# 全身麻酔と局所麻酔

- 全身麻酔と局所麻酔をそれぞれ単独で行う時と、両者を併用するときがあります。
- 状態に応じて麻酔法を変更することもあります。
- 患者さんごとに、最も安全と考えられる麻酔法を選択します。

全身麻酔

局所麻酔

硬膜外麻酔  
脊髄くも膜下麻酔 など

意識がない

意識がある



全身麻酔  
(手術中は完全に  
眠っている状態)

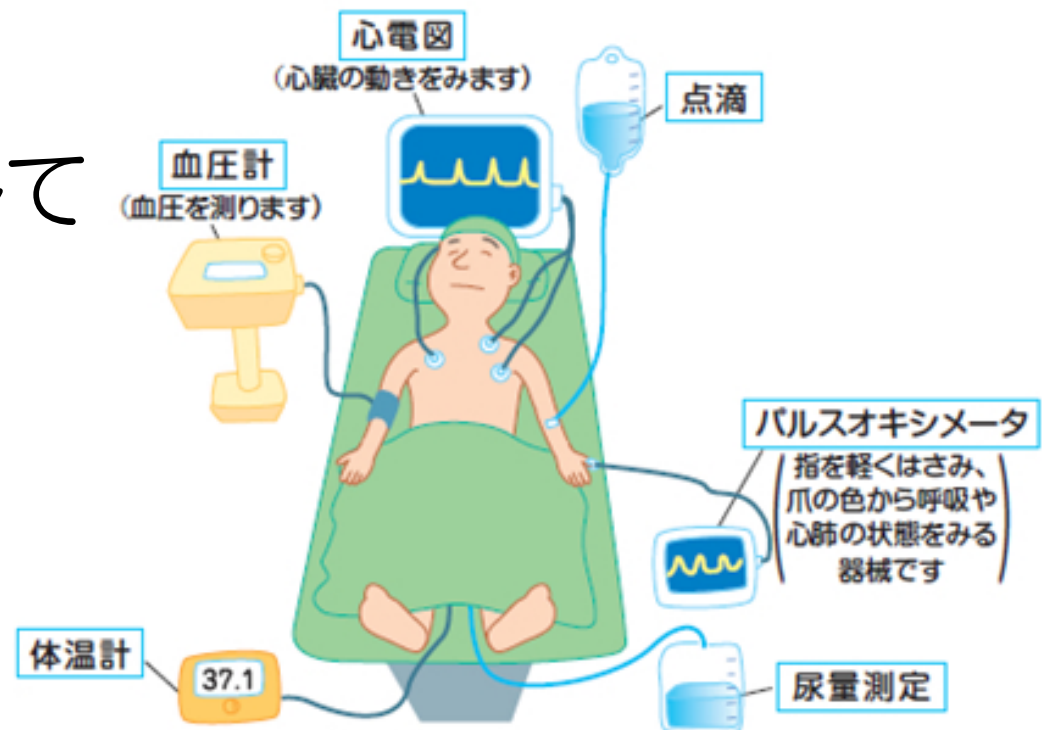


局所麻酔  
(手術中は  
目覚めている状態)



# 手術室の中

- 入室後、本人確認をします。
- 心電図や血圧計などの必要な装置（モニター）をつけ、点滴をします。
- 手術前から手術後まで、継続してモニター類を身体につけて過ごします。



# 硬膜外麻酔（局所麻酔の一種）

- 脊椎（背骨）の中にある脊髄のすぐ近くの硬膜外腔という場所に、局所麻酔薬をいれて、痛みを軽くする麻酔法です。
- 手術をする所に合わせて、背中のあるどこから麻酔薬をいれるかを決め、カテーテルという細い管をいれます。このカテーテルから麻酔薬を持続的にいれます。
- 合併症を減らすため、眠る前に行います。

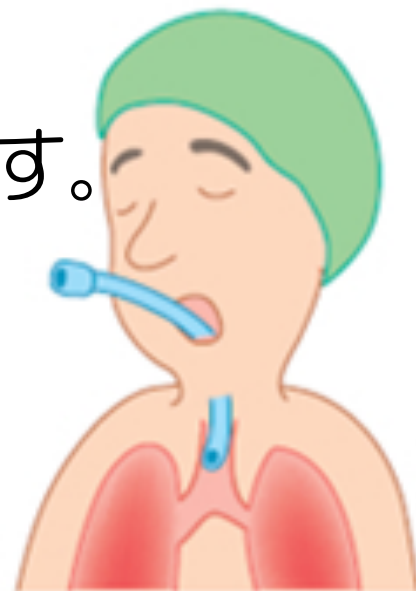


# 全身麻酔

- 鼻と口にマスクを当てて酸素を吸います。  
眠る薬を点滴にいれるといつの間にか眠って呼吸が止まります。



- 酸素の通り道を確保するために口から気管にチューブを挿入します。  
手術中は、患者さんの状態と手術の進行状況をみながら、麻酔の深さや人工呼吸の条件を適切に調節していきます。



# 全身麻酔から目が覚めるのはいつ？

- 手術中は持続的に麻酔の薬投与しています。
- 予定外に手術が長くなっても、投与している間は目が覚めることはありませんのでご安心ください。
- 手術が終了する頃に、麻酔薬の投与を中止します。
- 目が覚めるまでの時間には、個人差がありますが、多くの方は15分前後で反応がみられます。
- 意識があり、血圧、呼吸状態などに問題がないことを確認し、口のチューブを抜きます。
- ただし、手術によっては麻酔から覚まらず、眠ったまま集中治療室に入室します。

# 手術の後ってすごく痛いって本当？

- 手術中から一般的に必要なと考えられる量の痛み止めを使用していますが、効き具合には個人差があります。
- 麻酔から覚めた時から、全く痛くないという患者さんも多くいらっしゃいますが、もし麻酔から覚めた時に強い痛みを感じる場合には、すぐに対応します。
- 痛みを我慢しないで遠慮なく医師や看護師にお伝えください。
- 術後の痛み止めの薬はあらかじめ準備してあり、適宜使用していくのでご安心ください。

# おわりに

今後、最新の情報をもとに、最新の機器や新薬を導入していきます。

また、外科系の医師や看護師と協力して、患者さんが

より良い環境で、安心して

手術を受けて頂けるよう、努力します。

どうぞよろしくおねがいします！

